

みやま共同作業所 通信

みやま共同作業所広報紙

第4号

2004.6.9

発行
美山町社会福祉協議会
〒601-0751 美山町島 町民センター内
TEL.0771-75-1660 FAX.0771-75-0829



◀中学生に感謝!



▶ボランティアさんもいざ出発

いよいよ アルミ缶の季節



▶作業所のみんなもがんばってます!

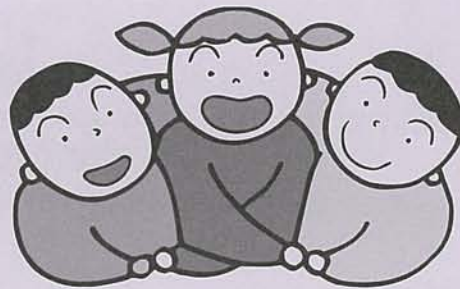
皆様のご協力を
よろしくお願ひ
申し上げます

今年の新しい取り組み

オープンランチ始めます。

オープン・ランチを始めます。これは、在宅でとじこもっている障害をもった方々や地域の皆さんに、「作業所ってどんな所かな？」とのぞいてもらう機会を作るものです。地域の皆さんが作業所の皆さんと交流し、お互いに理解を深められればと思います。気軽にご参加下さい。

- ①日 時／毎月第2水曜日
午後0時～1時
- ②場 所／町民センター
- ③参加費／250円
- ④参加申し込 いつでもOK



ボランティア活動 応援します

熱烈歓迎！

美山おでかけクラブ創設

美山町に住んでいる障害児者の皆さん。「美山おでかけクラブ」というボランティアグループが設立しました。このグループは、障害者の外出を支援したり、日中活動をサポートしたり、つまり社会参加を進めるための援助活動をおこないます。「京都まで買い物に行きたいな」「映画を見に行きたいな」「ドライブしたいな」「コンサートに行きたいんだけど」「ちょっと頼みたいんだけど」などなど。詳しく知りたい人はご連絡ください。

お問合せ先／美山町身障福祉会
事務局 竹内
電話 75-1660

訪問授産を 始めます。

みやま共同作業所が開所して4年経ちますが、開所当初から今まで通所できずに家にとじこもっている方がいます。「作業所ができたから、どうぞ来て下さい。」だけではだめなんですね。そこで、こちらから手をさしのべようというものです。

他にも地域には、「とじこもりで外へ出られない。」方々がまだまだおられると思います。まずは相談して下さい。

わたしも がんばっています！



朝田知佐子

開所当時は8名だった仲間が今は17名という人数でなりました。ここでいろんな事を学ぶ事の出来る場所です。私にとってみやま共同作業所は心の居場所です。

仕事は、オープン工業や、アルミ分



中野善二郎

こんにちは。みやま共同作業所も開所以来4年数ヶ月たち、当初の倍近い人数になりました。いままでの広報紙の写真を見ていただいてもおわかりの様に作業所の仲間達はみんな生き生きとした元気な笑顔ばかり映っています。私は満73歳の最年長ですが20代

の娘さんもいて、孫か子供たちぐらい年がはなれています。彼等の「お父さんのような存在だ」と云われた方もありましたが、私は少しもそんな気持ちは持っていません。同じ仲間、同じ友達だと思っております。それぞれ個性のあふれた愉快な仲間達です。しかしこの時期になると、特に20数年前の事故で切断した大腿の痛みが強くなって、それは電気が体を通った様なので「アイタタ！アイタタ！」と声が出る時もあります。けれども、作業所へ出てくるとそんな痛みもやわらぎ、みんなと冗談を言い合ったり、面白い話などをして大声で笑っています。又、有

別、掃除などなどしています。

私はオープンの仕事が好きです。

仕事中CDやソングが鳴りひびいていますその中で仕事を頑張っています。

その中でも会話がたえません、毎日が楽しいドラマが生まれる所でもあるようにも思っています。

今日はどんなドラマが生まれるかを楽しみに通っています。いろんな事がありますが仲間の皆さんに支えられながら明るい職場であり笑いのたえない心の和がいつまでも炎としてもやっつけたいです。

難しいことに毎日規則正しい生活になって食事もおいしく自分でも少し若返ったようです。それに主な作業のうち、オープン工業の仕事は手先を使うのが多く、ボケ防止にも役立っていると思います。

ただ一つだけ不満なのは仲間達の多くが巨人ファンで阪神ファンの私は孤立していることです。もっとも最近阪神ファンも少しできました。

私は、このみやま共同作業所がとても気に入っていますので、自分が働ける限りここでがんばるつもりです。ご支援の程よろしくお願いいたします。



あんなこと こんなこと



11月11日 カラオケボックス



12月25日 下東さん授賞式



5月11日 神戸南京町



5月11日 列車でお出かけ



3月 調理実習

所長雑感

このごろ思うこと

竹内 晶

作業所を開設して四年が経ちます。本当にいろいろな事をやって来たなと思います。

始めは、障害者の地域での自立へ向けた生活支援の一つとして、また拠点だと考え活動をして来ました。労働の場を提供する事、気がねなく安心して日中をすごせる生活の場、また作業所を通して社会参加を広げ、社会体験を進める窓口となること、等々です。そして障害をもった皆さんが自信をつけ生き生きと暮らせるようにと思ひ活動をしてきました。その成果はあちこちに見られるようになりました。賃金も、もらうよるこびから、がんばれば増えるよるこびを実感できるようになりました。社会参加では生活圏を広げ、いろんな体験をしてきました。「自信がついて生きることが楽しくなった。」という作文（府や内閣府の表彰を受賞）はその成果だろうと思います。

しかし、ここ最近一つの考えが頭をよぎっています。というのは、これら全ての活動はノーマライゼーションの理念を基に行ってきたが、それでいいのかというものです。

ノーマライゼーションというのは、わたしの理解が正しければ、可能なかぎり普通の人と同じ生活の実現であります。そして、わたしは、皆さんがそのようになることを目指して来ました。しかし、皆さんの希望はそうだろうか。作

業所の皆さんは、健常者と同じようにいろいろなことをしたいと思っています。

ところが、健常者といっしょにしたいとは思っていない、ということを感じてきました。健常者の中に入ってもやっぱり負担になるし、同情や好奇の目で見られたくないというものです。むしろ、作業所で障害者の仲間と何の気もねもなしにいたいことを好んでいるようにさえ見えます。

つまり、健常者と同じことがしたいが、いっしょになりたいとは思っていないように見うけられます。むしろ、同じ仲間といて何の気もねもない方が居心地がよいと。ある人たちはこれをサポカルチャーの必要性と言っています。わたしもそうだなあと思うようになってきました。それは、健常者と障害者の間に線を引くのではなく、地域社会の中で健常者と共に暮らしながら、同時に障害者同士のコミュニティがネットワークのように出来ることかなと思っています。

いろいろな思いが、頭の中をぐるぐる回っています。ぼちぼちとがんばるつもりです。ご意見ご批判を下さい。

次回は、コミュニティとしてのサロン活動について話したいと思っています。